

CASA新聞

平成30年1月号

発行 株式会社カーザミカワ
 岡崎本社 ☎0564-24-2511
 岡崎市吹矢町88番地
 豊田営業所 ☎0565-28-3891
 豊田市豊栄町6丁目1番地

国産針葉樹合板、過去最高の生産・出荷続く、輸入合板の入荷量、前年並み

10月の内、外産合板供給量は51万1900立方メートルと前年同月比4.0%増となった。国産合板は構造用合板を中心に旺盛な需要が続いており、28万立方メートルを超える高水準の生産・出荷量だ。一方、輸入合板は直近の平均入荷水準である23万立方メートルの入荷となったが、国内市場での品薄感依然として強い。

国産合板の10月0立方メートルを上回り過去最高の生産量を更新した。一方、国産合板の10月分出荷量は28万6200立方メートルと前月比4.8%増となり、針葉樹合板の月間生産量としては今年6月の26万560立方メートルと同5.8%増と

なり、27万立方メートルの大台を超えた。針葉樹構造用合板について大手プレカット会社など直需ルートからの年末に向けた注文に対応するため生産、出荷とも25万立方メートルの高水準で推移していることに加えて、フロア合板などに非構造用合板の引き合いも旺盛なことが過去に見られない高水準での針葉樹合板の生産と出荷を後押ししている。一方、輸入合板の10月入荷量は23万1500立方メートルと同1.5%増。このうち、マレー

シア産が8万7700立方メートル、インドネシア産が7万2700立方メートル、中国産が5万4700立方メートルとなった。しかし塗装型枠合板や薄物合板などの品薄状態は依然として解消されていらない。そのた産地メーカは原木不足の中、単板の選別がそれほど厳しくない構造用や生型枠の生産を優先している。このような状況から、入荷量自体は変わらなくても品目によっては品薄感が強まっている。

国交省 地域連携で既存住宅活性化へ

国交省は安心R住宅を核とした上限100万円(戸)の補助事業を進めていく。地域型住宅グリーン化事業のよなイメージで、地域の工務店や建築士、検査、金融機関、宅建業者を、中心となる企画者を取りまとめ協議会を設立。地域が一体となり既存住宅流通を促進させていくという取り組みだ。

国交省は2017年初から始まった住宅ストック維持・向上促進事業の一環として、安心R住宅版を創設した。同事業は住宅のエコリフォームと良質な既存住宅購入、エコ住宅の建て替えに対して補助するもの。

既存住宅の改修や購入を軸にした初の事業で、インスペクションも要件になる。国交省はこれに先立つ16年6月に改正宅建業法を公

布し、不動産売買時のインスペクションに関する説明義務を規定した。既存住宅流通を活性化させる上で、既存住宅の品質確保と瑕疵担保保険適用にインスペクションは必須だ。その意味で、同事業が既存住宅流通活性化策としての第1弾とされる。

第2弾として発展させたのが、17年12月施行の安心R住宅を軸にした補助事業だ。これは、安心R住宅制度の登録を受けた団体等により構成される協議会が事業主体となる。その協議会が中心となり、チームを取りまとめるのが企画者で、既存住宅の商品化やブランド化を進めていく。

協議会には企画者を中心に工務店(リフォーム施工、維持管理)、建築士(リフォームの計画、設計)、検査・履歴事業者(インスペクション、住宅履歴の蓄積・管理)、宅建業者(不動産鑑定士・値付け・鑑定評価、買取・貸付保証)、金融機関(ローン商品で住宅の良質性を評価)が連携し構成していく。

開発や普及に関わる費用が1事業あたり上限2000万円、1戸あたり上限100万円。これは住宅の質の適切な維持・向上を図る経費で、内容はインスペクション実施、住宅履歴、維持管理計画の作成、瑕疵保険加入などが当てはまる。

国産材製品全国商況

国産材製品の荷動きは、大半の地域で年末まで活発な引き合いが続く見通し。昨年、関東市場で見られたような急速な夏逼迫はないが、市場からのKD製品の品薄はまだ続く。ただ、主要産地では丸太の出材が増え、製品生産も順調で、流通への納材も徐々に円滑になってきた。ルーイも徐々に引き合いも徐々に落ち着き始めているため、年明けには一部品目を除き、需給は緩和してくると見られていた。最後まで不足感が残るのは松土台と杉母屋と見られ、グリーン材や1等、特1等は比較的手当てしやすいが、KD特等は量を揃えにくい。特にKD特等の松土台は、大手ビルダーの新規採用が活発化しており、年明け以降も需給の引き締まった状態が続きそうだ。

名古屋
並材の不足続く
国産材製品は松や

2018年度は駆け込み需要で持ち家が増加

建設経済研究所によると、2018年度の住宅着工数は、2017年度前年度比1.0%減の96.4万戸、2018年度が同0.1%増の96.5万戸と予測されている。2017年度の見通しとして、持ち家は低金利による効果が弱まっていくとの見方から、同0.4%減の29.1万戸としている。けん引役であった貸家についても、相続税の節税対策による着工が落ち着くと見方から、同3.4%減の41.3万戸となった。分譲一戸建て住宅については、企業による土地の仕入れや開発が前向きに進むとして同2.1%増の13.8万戸と予測

している。分譲マンションは販売適地の減少などがある一方、実績として着工戸数が大きく伸びていることから、同2.7%増の11.8万戸と予測している。2018年度の持ち家と分譲一戸建て住宅については、2019年に予定されている消費税増税前の駆け込み需要から着工戸数が増加すると見込まれ、それぞれ同4.0%増の30.2万戸、同4.4%増の14.4万戸との見通しが示された。一方、貸家は同1.9%減の40.5万戸、分譲マンションは同8.1%減の10.8万戸と予測がされている。



昨年中は格別のご厚情にあずかり
心より御礼申し上げます
本年もよろしくご愛顧のほど
お願い申し上げます



カーザミカワ社員一同

杉の並材10.5寸角の柱や土台の不足感が続いており、価格は概ね強含みだ。地区内では大規模物件を想定した手当てが目立つため、役物製品を挽く製材工場は「今秋以降の市場で、大経木良材の価格上昇は予想以上」と話す。また、先ごろ開かれた地方製品市場の特市は、役物、並材を問わず販売を伸ばし、前年同市の売り上げを上回った。

表示説明

市況状況

値下げ	横ばい	値上げ
ラワン薄ベニヤ・・・		
ラワン正寸12mm T2・・・		
針葉樹12mm 3×6・・・		